

おほとものすくねやかもち
大伴宿禰家持、坂上大嬢に贈る歌一首
あは たんか
并せて短歌

一六二九番

ねもころに 物を思へば 言はむすべ せむすべ
もなし 妹と我と 手携はりて 朝には 庭に
出で立ち 夕には 床打ち払ひ 白たへの 袖
さし交へて さ寝し夜や 常にありける あしひ
きの 山鳥こそば 峰向かひに 妻問ひすといへ
うつせみの 人なる我や なにすとか 一日一夜
も 離り居て 嘆き恋ふらむ ここ思へば 胸こ
そ痛き そこ故に 心なぐやと 高円の 山に
も野にも うち行きて 遊びあるけど 花のみし
にほひてあれば 見るごとに まして憊はゆい
かにして 忘るるものそ 恋といふものを

反歌

一六三〇番

高円の 野辺のかほ花 面影に 見えつつ妹は
忘れかねつも